

郷土摂津 いにしえ通信

第85号



平成17年5月1日

発行

摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課

〒566 - 8555 摂津市三島一丁目1 - 1

(06)6383 - 1111 (072)638 - 0007

ホームページアドレス

<http://www.city.settsu.osaka.jp/>



ふるさとの川「淀川」

～川は流れる悠久の歴史の中で～

人類が出現する以前の原始から古代・中近世・現代まで時代別に淀川と摂津市の関わりに迫ります。

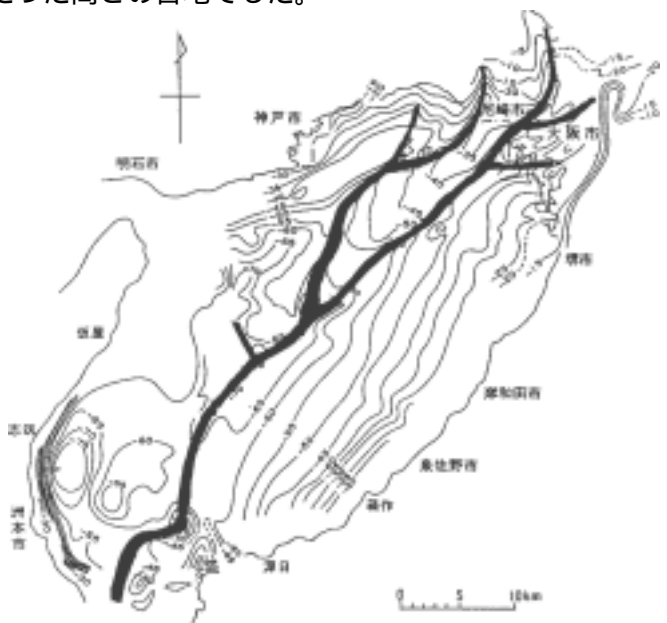
第2回

古淀川と古大阪平野の景観 先ごろ開幕しました愛・地球博で、シベリアの永久凍土から発掘されたユキガル・マンモスが人気を集めています。体には剛毛が生え、よくねじれ曲がった牙を持つこのマンモスは、最後の氷期の中でもとりわけ寒さが厳しかった時期に生きていたと推定されています。20,000～18,000年前に襲来したというこの極寒期は、年平均気温が近畿地方で現在より6～8度低かったといわれています。その当時、ユーラシアや北米、南極などの極地方の陸地は、厚さ3,000mを超える氷床（大陸氷河）で覆われていました。海面から蒸発した水が氷となって陸上に固定されたため、その分の海水が減り、海面は現在より100m余りも下がっていました。そのため、大阪湾や瀬戸内海はすっかり干上がり、当時の大阪は、北は六甲と北摂山地、東は生駒と金剛山地、南は和泉、西は淡路の山地や山脈に囲まれた内陸の盆地でした。古大阪平野と呼ばれるこの盆地は、現在の大阪平野よりもはるかに起伏に富んでいたようです。

桂川・宇治川・木津川の水を集めて西南に流れていた古淀川は、六甲山の南方で猪名川や武庫川と合流して古大阪川となり、南流して淡路島と友ヶ島の間を抜け、遠く紀伊水道付近で太平洋に流れ込んでいました。大阪城がある上町台地の北端は、旧淀川である大川河床との比高は20mほどでしたが、20,000年前の淀川河床からは50mを超える際立だった高さの台地でした。

奈良盆地と石川の水は古長瀬川となって柏原市付近から北西に流れ、南の丘陵からは古平野川や古東除川が北流していました。これらの川は上町台地の東側で合流し、森ノ宮付近では川幅600mの大きな川になって淀川に流れ注いでいたようです。

当時の日本列島は、黒潮の流れに近い太平洋沿岸を除けば、夏でも雨が少なく、冬の積雪量は現在の半分ほどでした。そのため、内陸の瀬戸内地域はたいへん乾燥していて、古大阪平野には深い森はなく、草地の中に広葉樹と針葉樹のつくる林がまばらに広がる程度でした。とはいえ、短い秋には濃い緑の中、高原の秋のような景色を見せていたことでしょう。



大阪湾沖積基底面と古大阪川

「天満砂礫層と伊丹礫層・西垣好彦・藤田和夫」に加筆

お知らせ

ツール・ド・大阪せつつウォーキングコース 南コースを歩こう

SOUTH



平成 16 年度健康づくり事業の一環で市内に 2 つのウォーキングコースを設定し、昨年 11 月に北コースを利用してコース開きイベントが開催されました。本年度は南コースを利用した市民ウォーキングが健康推進課主催で開催されます。このウォーキングでは、ふるさと摂津案内人により鳥養の渡し跡と千本つきの歌碑の楽しい説明があります。生活習慣病を含む様々な病気の予防に、運動の効果が注目されています。歴史散策を兼ねて『川辺とわがまち・南コース』を一緒に歩きませんか？

と き 平成 17 年 5 月 22 日 (日)
 集合場所 モノレール南摂津駅
 受付開始 午前 9 時より
 スタート 午前 9 時 30 分より
 歩行距離 9.2 km または 6 km
 ゴール モノレール南摂津駅前
 (12 時半頃到着予定)

9.2 km コースは淀川新橋で折り返し

モノレール南摂津駅前 淀川堤防堤 淀川河川公園
 鳥飼サービスコーナー前 鳥飼仁和寺大橋
 鳥飼上 (淀川新橋) モノレール南摂津駅前

6 km コースは仁和寺大橋で折り返し

小雨決行。雨天の時は午前 8 時から 8 時 40 分までに市役所へ実施の有無を確認してください。

お問合せ 摂津市健康推進課 06 - 6383 - 9031

ふるさと摂津案内人は摂津市まいどおおきに出前講座市民編に登録しています。市内に在住・在勤・在学者でおおむね 10 人以上のグループで歴史散策をご希望の場合は、生涯学習課までお問合せ下さい。ふるさと摂津案内人がおもしろおかしく郷土の歴史を説明します。

第48回 埋もれた摂津市の歴史

1m 等高線から見た摂津市



発掘調査で明かになる埋もれた
摂津市の古代に光を当てます。

前号では昭和 36 年大阪府作成 3,000 分の 1 地形図に摂津市の範囲及び近世集落の位置を加筆した地図を紹介しました。この地形図から当事の集落の立地を検討してみます。旧鳥飼村域のうち鳥飼上村・鳥飼下村・鳥飼野々村は標高 4 m の高まりに立地しています。鳥飼八防村は標高 3 m の高まりに立地しています。その他鳥飼中村・鳥飼西村は標高 3 m の堤防上に立地します。いずれにしても淀川の堤防上に上流から下流へと集落が南西に向けて縦長に形成されていることが見てとれます。また鳥飼八防集落が形成される標高 3 m のラインは輪道と呼ばれ、現在の鳥飼和道の地名にその名残が見られます。

北摂の山系から流れ出る河川のなかで、直接淀川に合流しているのは芥川とこれより上流の河川です。茨木川や安威川は淀川と平行に流れ、下流で神崎川に合流しています。これら河川の流れと淀川右岸の集落が形成される連続堤により一帯の排水を阻害する形となっていました。悪水が停滞して内水氾濫となる状況は江戸時代に至って激しくなります。江戸時代における淀川右岸の水利関係文書の大部分が悪水排除のための井路の開削や、その運営に対する取り決めが多くを占めるという状況からも悪水排除への苦勞が伺えます。古代から施行された土地区画制度である条里制もこの地域では見られないという事も排水条件の悪さに起因しているようです。しかし、当事の人々は自らが住む土地の標高を知る事はなかったかも知れませんが、自然と標高が 3 m 以上の高まりや堤防本体上に集落を営んでいました。安定した生活を営む努力を怠らなかつたと言えます。現在では、堅固な堤防が築かれ 1 m 単位の標高差で生活に変化はありません。しかし当事はこの標高 1 m 差が生活に安定をもたらす大きな要素であったことが伺えます。

(つづく)(参)「淀川下流域における地形と河川流路の変遷『大阪文化財論集・大阪府文化財センター・2002』阪田育功」